

世界貿易投資動向シリーズ

# イスラエル

2022年10月17日

海外調査部・テルアビブ事務所

2021年のイスラエル経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でマイナス成長だった前年から回復し、実質GDP成長率は8.2%となった。貿易額は輸出入ともに増加したが、輸入の伸びが輸出を上回り貿易赤字が拡大した。日本の対イスラエル貿易も輸出入ともに増加し、特に半導体等製造装置の輸出が伸びた。イスラエルへの対内直接投資額は前年比22.0%増となった。日本の対イスラエル投資額も、前年の27億円から417億円へと大幅に伸びており、幅広い分野で大型の投資案件や協業事例がみられている。

## ■前年のマイナス成長から回復し、成長率は8.2%

イスラエル経済は、新型コロナ感染拡大によるロックダウンなどの影響を受け、実質GDP成長率がマイナス2.2%だった前年から、2021年は8.2%と大幅に回復した。2021年を通じて新型コロナ感染の波は続いていたが、政府は世界に先駆けて3回目の接種を含むワクチンキャンペーンを推進し、経済の回復に努めた。第2四半期にはロックダウンの反動から成長率がプラスに転じ、その後も回復基調を維持した。

## ■輸出入額ともに増加、貿易赤字は拡大

2021年の貿易をイスラエル通関統計で見ると、輸出は前年比19.9%増の601億5,800万ドル、輸入は31.0%増の921億5,900万ドルとなった。経済回復により貿易取引が増え、特に輸入が拡大したことから、貿易赤字が前年の201億7,200万ドルから118億2,900万ドル（58.6%）増加し、320億ドル100万ドルとなった。

輸出を品目別にみると、機械機器・電子機器・音響画像記録装置は前年比20.8%増で全体の27.9%を占め、前年に続き金額ベースで最大となった。次いで化学製品が17.6%を占めたが、9.0%減だった。

表1 イスラエルの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2020年 金額	2021年 金額	2021年 構成比	2021年 伸び率	2020年 金額	2021年 金額	2021年 構成比	2021年 伸び率	
機械機器・電子機器・音響画像記録装置	13,901	16,795	27.9	20.8	機械機器・電子機器・音響画像記録装置	17,921	22,125	24.0	23.5
化学製品	11,669	10,613	17.6	△ 9.0	鉱物性生産品	6,057	9,753	10.6	61.0
医薬品	1,665	2,113	3.5	26.9	化学製品	8,109	9,258	10.0	14.2
真珠・貴石・金属およびその製品	5,974	9,545	15.9	59.8	医薬品	3,310	3,364	3.7	1.6
光学・医学・精密機器	5,628	7,361	12.2	30.8	輸送機器	6,787	8,630	9.4	27.2
ゴム・プラスチック製品	2,878	3,490	5.8	21.3	真珠・貴石・金属およびその製品	4,305	6,934	7.5	61.1
輸送機器	2,395	2,559	4.3	6.9	卑金属およびその製品	4,473	6,213	6.7	38.9
卑金属およびその製品	1,964	2,459	4.1	25.2	ゴム・プラスチック製品	3,196	4,512	4.9	41.2
鉱物性生産品	1,429	2,379	4.0	66.4	食料品・飲料・タバコ	3,012	3,631	3.9	20.5
植物性生産品	1,317	1,458	2.4	10.7	繊維製品	2,940	3,539	3.8	20.4
繊維製品	961	1,040	1.7	8.2	光学・医学・精密機器	2,936	3,290	3.6	12.1
合計（その他含む）	50,154	60,158	100.0	19.9	合計（その他含む）	70,326	92,159	100.0	31.0

[出所] イスラエル中央統計局(CBS)

3位の真珠・貴石・金属およびその製品は59.8%増と大きく伸び、15.9%を占めた。同品目の主な取り扱いはダイヤモンド関連で、前年は新型コロナ感染拡大による経済停滞の影響で大きく落ち込んだが、2021年は各国とのダイヤモンド取引が戻ったことで大きく伸び、輸出額全体を押し上げる要因となった。

地域別に輸出をみると、欧州（構成比33.8%、前年比15.8%増）、北米（28.8%、23.5%増）、アジア（23.6%、24.3%増）の順となっており、これら主要地域でいずれも大きく増加した。

国別では、2020年9月にアブラハム合意により国交が正常化したアラブ首長国連邦（UAE）が前年比5.2倍と急伸し、構成比は0.6%と大きくはないが、存在感を示した。UAEへの主な輸出品目はダイヤモンド関連で、UAEからの同品目の輸入も増えており、国交正常化によりUAEとのダイヤモンド関連ビジネスが急速に拡大したことがうかがえる。また、米国（24.3%増）、中国（5.5%増）、インド（71.1%増）など、構成比が大きい主要国向けが軒並み増加した。一方で英国向けは、化学製品が大きく落ち込んだ影響から44.6%減で、前年比で減少した数少ない国のひとつとなった。前年はアジア諸国の中で、中国とインドに次ぐ3位の輸出相手国だった日本は、4.3%増加したものの、大きく伸びた韓国（46.5%増）と台湾（45.0%増）に抜かれて5位となった。

輸入を品目別でみると、主要品目が軒並み増加した。全体の24.0%を占めて最大の構成比となる機械機器・電子機器・音響画像記録装置が前年比23.5%増、次いで鉱物性生産品（構成比10.6%）が61.0%増、化学製品（10.0%）が14.2%増、輸送機器（9.4%）が27.2%増となった。前年に36.8%減と大きく落ち込んだ真珠・貴石・金属およびその製品は、61.1%増と主要品目では最大の伸び率となり、輸出と同様に、ダイヤモンドを中心とした同品目の国際取引が急回復したことがうかがえる。

輸入を地域別にみても、主要地域で軒並み増加した。前年と同様に、構成比は欧州（構成比51.0%、前年比26.8%増）、アジア（27.5%、41.7%増）、北米（9.8%、4.5%増）の順となった。大幅に増加したアジアに比べ、北米からの輸入の伸び率が小さかった結果、北米の構成比は前年の12.3%から2.5ポイント減少した。

国別にみると、輸出と同様に構成比は0.9%と小さいものの、UAEが7.2倍と突出して伸びた。次いでロシア（65.9%増）、アイルランド（62.5%増）、インド（52.6%増）も大きく増加した。中国は38.8%増加して、構成比14.8%と前年に続いて最大の輸入相手国となり、2位の米国（9.4%）との差を広げた。

表2 イスラエルの主要国・地域別輸出入<通関ベース>  
(単位: 100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2020年		2021年		2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
アジア	11,403	14,169	23.6	24.3	17,917	25,382	27.5	41.7
中国	5,480	5,783	9.6	5.5	9,832	13,648	14.8	38.8
インド	1,599	2,735	4.5	71.1	1,723	2,630	2.9	52.6
韓国	788	1,154	1.9	46.5	1,693	2,252	2.4	33.0
台湾	733	1,063	1.8	45.0	938	1,106	1.2	17.9
日本	948	989	1.6	4.3	1,246	1,451	1.6	16.5
UAE	74	385	0.6	419.6	116	837	0.9	622.7
バーレーン	0	4	0.0	-	0	3	0.0	-
欧州	17,575	20,358	33.8	15.8	37,088	47,014	51.0	26.8
EU27	10,954	14,433	24.0	31.8	24,501	31,372	34.0	28.0
オランダ	2,463	2,234	3.7	△ 9.3	2,902	3,712	4.0	27.9
ベルギー	1,458	1,975	3.3	35.4	3,427	4,621	5.0	34.9
ドイツ	1,681	1,793	3.0	6.6	5,230	6,560	7.1	25.4
アイルランド	198	1,435	2.4	624.9	1,216	1,976	2.1	62.5
イタリア	787	1,378	2.3	75.2	2,687	3,366	3.7	25.3
英国	3,713	2,058	3.4	△ 44.6	2,974	2,990	3.2	0.6
トルコ	1,431	1,919	3.2	34.1	3,498	4,764	5.2	36.2
ロシア	672	794	1.3	18.2	425	705	0.8	65.9
スイス	445	743	1.2	66.9	5,254	6,618	7.2	26.0
北米	14,022	17,316	28.8	23.5	8,678	9,072	9.8	4.5
米国	13,132	16,319	27.1	24.3	8,327	8,631	9.4	3.6
カナダ	567	612	1.0	8.0	276	335	0.4	21.1
中南米	1,617	1,955	3.2	20.9	888	1,117	1.2	25.8
ブラジル	1,007	1,260	2.1	25.1	220	297	0.3	35.3
アフリカ	586	735	1.2	25.4	323	331	0.4	2.5
モロッコ	12	31	0.1	148.4	10	11	0.0	5.8
オセアニア	546	637	1.1	16.8	201	240	0.3	19.4
合計 (その他含む)	50,154	60,158	100.0	19.9	70,326	92,159	100.0	31.0

[注] ①中国は中国本土と香港の合計値。  
②イスラエル中央統計局の分類では、UAEおよびバーレーンはアジアに含まれる。  
[出所] イスラエル中央統計局(CBS)

## ■直接投資額は対内、対外ともに前年に続き増加

中央統計局によると、2021年の対内直接投資は296億1,500万ドル（国際収支ベース、ネット、フロー）で、前年から22.0%増加した。一方、対外直接投資は97億1,300万ドルで、前年から52.4%増加した。

2021年のイスラエル企業への主な投資案件としては、6月に米国の投資会社カーライル（Carlyle）がライブ放送やストリーミング技術を提供するライブユー（LiveU）を買収、9月には米国のコンテンツ配信会社アカマイ（Akamai）がサイバーセキュリティ企業ガーディコア（Guardicore）を約6億ドルで買収した。また同月、旭化成の米国子会社であるゾールメディカル（ZOLL Medical）が医療機器メーカーのイタマー・メディカル（Itamar Medical）を約5億ドルで買収した。2022年に入っても、2月には米国の半導体メーカーのインテル（Intel）が、半導体製造受託会社タワーセミコンダクター（Tower Semiconductor）を54億ドルで買収することが発表されるなど、大型のM&A案件が続いており、スタートアップ向けを中心に積極的な対内投資が続いていることがうかがえる。

## ■日本の対イスラエル貿易は輸出入ともに増加

日本の財務省貿易統計をドル換算したものによると、2021年の日本からイスラエルへの輸出が17億2,681万ドルで前年比14.2%増、輸入は12億9,781万ドルで5.4%増となった。輸出は2019年から2年連続で減少していたが、2021年は増加に転じた。日本の貿易黒字は、2020年には2億8,096万ドルまで減少していたが、2021年は輸出の伸びが輸入を上回ったことから、52.7%増加して4億2,900万ドルとなった。

日本の輸出を品目別にみると、構成比で37.5%を占める自動車は、コロナ禍によるイスラエル国内の自動車市場の停滞を受けて、前年比0.9%増とあまり伸びなかった。次いで構成比20.5%の半導体等製造装置は、世界的な半導体需要の高まりから13.7%伸び、輸出額全体を引き上げた。

輸入を品目別にみると、構成比の比較的大きな科学光学機器（構成比15.5%、前年比23.5%増）や原料別製品（13.8%、39.5%増）が大きく伸びたが、前年に36.3%増とイスラエルからの輸入を牽引した電気機器が11.8%減、特に半導体等電子部品が26.4%と大幅に減少し、輸入額全体の伸びを抑える結果となった。

表3 日本の対イスラエル主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:1,000ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
輸送用機器	666,997	676,339	39.2	1.4	電気機器	452,129	398,847	30.7	△ 11.8
自動車	641,065	646,771	37.5	0.9	半導体等電子部品	148,857	109,534	8.4	△ 26.4
乗用車	624,489	593,705	34.4	△ 4.9	I C	146,598	105,230	8.1	△ 28.2
一般機械	421,755	467,108	27.1	10.8	通信機	68,513	57,423	4.4	△ 16.2
半導体等製造装置	311,163	353,798	20.5	13.7	化学製品	193,936	212,276	16.4	9.5
金属加工機械	19,089	18,565	1.1	△ 2.7	科学光学機器	162,398	200,636	15.5	23.5
電気機器	106,435	101,833	5.9	△ 4.3	原料別製品	128,485	179,258	13.8	39.5
化学製品	97,743	122,791	7.1	25.6	金属製品	66,433	91,106	7.0	37.1
プラスチック	26,540	32,268	1.9	21.6	非金属鉱物製品	52,943	76,626	5.9	44.7
原料別製品	46,193	53,719	3.1	16.3	一般機械	161,317	157,918	12.2	△ 2.1
写真用・映画用材料	38,514	44,297	2.6	15.0	食料品	79,563	71,977	5.5	△ 9.5
合計 (その他含む)	1,512,229	1,726,813	100.0	14.2	合計 (その他含む)	1,231,267	1,297,805	100.0	5.4

[出所] 財務省貿易統計 (通関ベース) をドル換算

## ■日本企業の対イスラエル投資額は大幅増

日本銀行の国別・業種別対外・対内直接投資統計（国際収支ベース、ネット、フロー）によると、2021年の日本の対イスラエル投資額は417億円で、前年の27億円から15倍となる大幅な伸びを記録した。他方、2021年のイスラエルから日本への直接投資額は21億円となり、前年の85億円から減少した。

2021年は、日本企業による大型の投資案件が複数あったことから、投資額が大きく伸びる結果となった。5月には、オリンパスが医療機器メーカーのメディテイト（Medi-Tate）を約2億6,000万ドルで買収、また三井住友海上火災保険は、自動車向けサイバーセキュリティー事業を行うアップストリーム・セキュリティー（Upstream Security）に対し、3,600万ドルに上る出資を行った。10月には、ルネサスエレクトロニクスがWi-Fiソリューションプロバイダーのセレノ・コミュニケーションズ（Celeno Communications）を約3億1,500万ドルで買収した。2022年に入っても、NECによるアグリテック企業クロップエックス（CropX）への出資、味の素によるフードテック企業スーパーミート・ジ・エッセンス・オブ・ミート（SuperMeat the Essence of Meat）への出資など、日本企業によるイスラエル企業への投資が幅広い分野で続いており、協業も含めて活況を呈している。

しかし、金額ベースでは大きく伸びたものの、外務省「海外進出日系企業拠点数調査」によると、日系企業の2021年10月1日時点でのイスラエルおよびガザ地区などの企業拠点数は85となり、前年同日時点の92からは7拠点の減少となった。

## 主要経済指標

	2019年	2020年	2021年
①人口：945万人（2021年）			
②面積：2万2,072km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：5万1,416米ドル（2021年）			
④実質GDP成長率（%）	3.8	△2.2	8.2
⑤消費者物価上昇率（%）	0.7	△0.9	3.0
⑥失業率（%）	3.8	4.3	5.0
⑦貿易収支（100万米ドル）	△18,277	△20,172	△32,000
⑧経常収支（100万米ドル）	14,340	22,247	22,531
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	126,008	173,292	212,934
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	103,202	130,410	160,573
⑪為替レート（1米ドルにつき、 シェケル、期中平均）	3.56	3.44	3.23

〔注〕2021年値は全て暫定値、②：ヨルダン川西岸・ガザ地区を除き、ゴラン高原、東エルサレムを含む、⑦：通関ベース〔出所〕①②⑤～⑧⑩：イスラエル中央統計局(CBS)、③⑨⑪：IMF、④：イスラエル中央銀行

（お問い合わせ先）

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp